

大館のカラス事情

今年1月29日に調査した、池内八幡神社付近の杉林に形成された「冬ねぐら」では、約3,500羽のカラスが確認されました。

カラスは、私たちにとって大変身近な鳥です。しかし近年その数は急激に増え、ゴミを散らかしたり大きな鳴き声で私たちに悩ませるだけでなく、繁殖シーズンには人を襲うといった問題もあるようです。

こうしたカラスの被害を少なくするために、市ではカラス対策ネット(黄色ネット)のモニター調査を実施するとともに、カラスの生息調査を大館自然の会(明石良蔵会長)にお願いしました。

カラスの生息調査

カラス対策を考えるためには、大館のカラスの実態を把握する必要があります。野鳥の知識豊富な大館自然の会に調査をお願いしたところ、同会では①市内のカラスのねぐら状況、②カラスの生息数、③ごみ収集所の管理状況とカラスの飛来数などを調査し、2月20日にその報告書を提出していただきました。

この地域に、カラスがどれくらい生息していて、季節によってどのように移動しているのか。

大館自然の会から提出いただいた報告書の内容をご紹介します。

大きくなりながら移動する「集団ねぐら」

カラスは、季節によって規模の異なるねぐらを作る習性を持っています。夏・繁殖期を終えると、数十羽の家族ねぐらを作ります。秋・いくつかの夏のグループが集合して「秋ねぐら」を作ります。冬・さらにグループが大集合して、大きな「冬ねぐら」を形成します。

大館の「カラスのねぐら」がどうなっているかを示したのが、次の図です。

平成17年9月～10月

神明社の杉林、寺町の杉林、三ノ丸のケヤキの森で「秋ねぐら」と思われるものが確認されています。このねぐらに入る直前に付近の電線などに止まり、安全確認をすることから、そこにふん害が発生します。

平成17年11月～12月

池内道下(旭ヶ丘)の杉林に集結して「冬ねぐら」を形成します。

問 生活環境課

☎ 49 3111

(内線204)

